

シリーズ ⑤1

我が家の家庭教育

橋場 吉岡 洋子

このまま

健康に育ってほしい

長男 小四、ちよつとずれておりますが、唯今反抗期の真っただ中。

つい何カ月か前までは、素直に聞いていた事が、今は同じ事を言っても、ひねくれた

返事がかえってくるばかり。おかげで、私もつられて、頭に血がのぼりそうです。

それに引きかえ、二男小一は、今の所平穩無事に毎日を送って、やれやれという所でしょう。

反抗期も大事な「成長の過程」と頭では、わかっていても、正直いつになったら、おさまるものかと、少々閉口しております。

我家は、祖母と男の子二人の五人家族。皆、働いています。私も去年の末から、外に

出る様になりました。

下の子はまだ保育園に通ってしましたので随分、迷い

たが、子供というのは、親が心配するほど弱くはないのですね。

誰もいない所に帰って来るのは、かわいそうだとか、親の



吉岡さん親子

目の行き届かない所で、何をしているのか心配だ とか：心配ばかりが先立って、

子供を必要以上に幼なく見ていたんだと思います。

一年生でも結構自分の事はやるものです。たまに宿題を忘れる事もありますが、私が帰ってくる時、いつもドロドロになって近所の子と遊んでいます。結局、親の方が子離れできないでいたんですね。最近になってや

つとその事に気がつきました。子供の方は少しずつ親離れの準備をしているのに、親の方だけ、未練がましく、いつまでも子供にしがみついているなんて。

我家は、これといった教育方針も何もありませんが、せめて子供の成長の足を引っ張るのだけは止めたいと思っています。

このまま 健康に育ってほしい。しいて言えば、これが我家の教育方針かな？

ひかりまちの風土記 ⑥



成田山上陸之地 尾垂浜

九三九年、朱雀天皇は関東地方に起った「平将門の乱」を鎮めるため、京都遍照寺の僧 寛朝に護摩奉修の勅命を授けました。

寛朝は、空海作の京都神護寺護摩堂の不動明王像（不動明王は 堅固で不動の菩提心の威力によって、悪魔や迷いのすべてを押え静めるといい、如来の使者として真言行者の

護持にあたる）を持ち、船で関東に向かい、九十九里尾垂浜に上陸しました。

寛朝が公津ヶ原（現在の成田市）で願禱した結果、乱は治まったといわれています。

寛朝が京都から奉持した不動明王像は、今でも成田山新勝寺の本尊として奉安されています。

昭和三十五年九月に、地元有志により「成田山本尊不動明王御上陸地」の記念碑が建立されています。

街角ライブラリーのご利用を！

公民館では、農業協同組合本所、日吉、南条、白浜の各支所と、光楽園養護老人ホームに、常時 200 冊を配本しています。是非ご利用ください。

また、読みたい本のリクエストもお受けします。どしどしお寄せください。

公民館 図書室